

守山まるごと活性化 議事要旨

作成者:坂田

イベント名: 第1回「食の地産地消プロジェクト」会議

日時: 平成31年4月16日(火)午後2時から午後4時まで

場所: 玉津会館 会議室1

参加者: プロジェクトメンバー 15名 会館2名

開催結果

内容

1. 平成31年度の運営体制および活動計画について
 - ・組織体制として部会を分けるかどうか
(例)野菜直売所部会、特産品等普及啓発部会など
⇒生産者との会議の結果をもって分けるかどうかを検討することとする。
2. 予算について
 - ・現在の売り上げ手数料は10%としているが袋詰めができていないものは手数料を変更してはどうか。
 - ・支出に関して、今現在は、どれだけ頑張ってもお茶やコーヒー、お菓子などは自腹で出している。その経費くらいは出せるのではないか。
3. 野菜直売所について(メンバーの意見)
 - ・2部会制は、人数の関係があるので検討が必要
 - ・イベント等に応じてばしょを変更していたが、固定の場所の方が良いのではないか。
 - ・当初の目的が、メンバー、生産者、地元住民の交流を図る目的であったが、現在では交流はほとんどない状態である。商品を持ってきて、置いて帰るだけ(袋詰めもしていない状態で。袋詰めしているものもあるが…)
 - ・直売所の運営が月2回(それ以外にも、料理教室などもあり)は難しい。
 - ・生産者の協力は不可欠(生産者と消費者の関係性も築くべき)では…
 - ・生産者側の袋詰めや、生産者側と消費者側のかかわりが希薄。
 - ・ワンコイン制を導入することで、会計にかかる時間の短縮を進める。
 - ・値段のつけ方を変更する方が良い。一定にするか、商品によって固定する。
 - ・消費者、生産者、販売者の人員確保
 - ・収支内訳の情報がほしい。
 - ・プロジェクトの意味を生産者側に理解してもらう(了承を得られた人のみ野菜の販売を受け付ける)。
 - ・直売所の月2回開催は多い。料理教室は好評のため、継続したい。
 - ・生産者の出荷(持ち込み)の時間にバラつきがありまとまらない。
 - ・持込可能時間を設ける必要あり。
 - ・野菜を通して、生産者、消費者、販売者の関わりが少ない。
4. 今後の検討事項
 - ・販売者、生産者との連携を密にするため、生産者側へ説明をして随時変更していく。
 - ・次回の会議は、生産者も参加してもらって、合同会議を開催したい。